

平成 26 年 6 月 23 日

各国公私立大学（学部）長 殿
各関係機関の長 殿

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター
教員候補者選考委員会 委員長 日浦 勉

教員の公募について（依頼）

時下、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター（以下、センターという。）におきましては、下記の要領により、教員を公募することになりました。つきましては、貴学・貴機関関係者に周知くださいますとともに、適任者のご推薦をいただきたく、ご依頼申し上げます。よろしくお願い申し上げます。

記

1. 職種： 准教授 1名
2. 所属・分野等：（付記1および2参照）
担当ステーション：耕地圏ステーション 静内研究牧場
教育研究部：持続的・生物生産領域
大学院：環境科学院・生物圏科学専攻・耕地圏科学コース
3. 勤務地：北海道日高郡新ひだか町静内御園111番地
4. 応募要件：
 - （1）博士の学位を有する方。
 - （2）放牧主体・草主体の家畜生産方式を活用した環境や持続的・生物生産等のフィールド科学について優秀な業績・研究能力を有し、環境科学院の大学院教育および耕地圏ステーション静内研究牧場（以下、牧場という。）が行う実習などを担当できる（付記3）とともに他分野と連携した教育研究の推進に意欲のある方。
 - （3）センターおよび牧場の全学的・社会的活動を積極的に遂行する方。
 - （4）放牧家畜管理などの実務経験のあることが望ましく、技術職員と一緒に、施設やフィールド管理に意欲と責任感をもって参画して

- いただける方で、当該施設（新ひだか町）で勤務できること。
- (5) 国際連携に積極的で英語による講義が可能な方。
海外でのプロジェクト参画など活動経験があることが望ましい。
 - (6) 平成 27 年 4 月 1 日までに速やかに着任できる方。

5. 応募書類

- (1) 履歴書 1 通（顔写真付き）
- (2) 研究業績目録 1 部
学術論文（査読制の有無）・学位論文・著書・総説・その他論文（査読なし）・学会発表に分けて記載してください。また、国際的・全国的シンポジウムのオーガナイザーや海外プロジェクトへの参画実績，招待講演・各種受賞・競争的研究費，委託研究費の獲得状況および教育実績など教育研究活動に参考となる事項も記載してください。
- (3) 主要論文の別刷またはコピー 5 編以内，各 7 部
- (4) これまでの教育研究の実績（2,000 字以内） 1 部
上記主要論文の内容を含め、これまでの教育・研究および社会貢献などに関する活動について記述してください。
- (5) 応募にあたっての抱負など（1,000 字以内） 1 部
就任後における教育・研究および牧場での研究展開に関する抱負などを記述してください。

6. 選考方法： 書類選考および面接（必要と認めた場合）。面接を行う場合、交通費等は支給されませんので、あらかじめご了解ください。

7. 応募期限： 平成 26 年 9 月 12 日（金）必着

8. 採用予定日： 平成 27 年 2 月以降のできるだけ早い時期

9. 応募書類提出先

〒060-0811 札幌市北区北 11 条西 10 丁目
北海道大学北方生物圏フィールド科学センター
係長（人事担当） 宛
（「持続的生物生産領域准教授公募」と朱書きし，書留で郵送してください。応募書類は原則として返却いたしません。）

10. 問い合わせ先

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター

耕地圏ステーション 近藤誠司

Tel: 011-706-2545 もしくは 0146-46-2021 (牧場)

E-mail : skon@anim.agr.hokudai.ac.jp

苫小牧研究林 日浦勉

Tel: 0144-33-2171

E-mail : hiura@fsc.hokudai.ac.jp

付記

- 1) センターは、農場・牧場・植物園・研究林・臨海実験所などの施設を統合して設立された学内共同利用施設です。教員は、耕地圏ステーション（本公募のステーション）・森林圏ステーション・水圏ステーションのいずれかに所属し、各施設およびセンターの管理運営にあたるとともに生物資源創成領域・共生生態系保全領域・持続的生物生産領域（本公募領域）・生物多様性領域・生態系機能領域・生物群集生態領域からなる教育研究部（領域）に所属して、教育・研究を行っています。センターと耕地圏ステーションの詳細につきましては、センターホームページ(<http://www.hokudai.ac.jp/fsc/>)、環境科学院と耕地圏科学コースの詳細については、環境科学院ホームページ(<http://www.ees.hokudai.ac.jp/>)をそれぞれ参照してください。

現在、本公募の持続的生物生産領域は、教授3名・准教授2名・助教2名で構成されています。また、耕地圏ステーションは、教授4名・准教授1名・助教3名で構成されています（数値はいずれも平成26年5月現在）。

- 2) 研究牧場は土地を基盤とする家畜生産を総合的なシステムと捉え、その効率的かつ持続的な在り方を確立するための基礎と応用について考究している分野です。家畜栄養、飼料・草地、家畜管理などに関する学問分野を基礎にその総合化を目指しており、センターの各領域・分野および施設や、学内共同利用教育研究施設として環境科学院および農学部・農学院と密接な連携の上に進められています。家畜生産現場である林間放牧用森林300haを含む470haの研究牧場をフィールドとして、その多様な生態系を活かした持続的家畜生産システムについて、基礎から応用まで幅広い観点から取り組む教育研究を重視し、現在の主要な研究テーマとしては「放牧を主体とした家畜生産システムにおけるエネルギーおよび物質循環」、「平坦草地・傾斜放牧地および林間放牧地それぞれの土地利用方式と家畜管理技術」、「草食家畜生産と飼料摂取・消化動態」等があります。
- 3) 牧場で行っている実習には、農学部専門科目の家畜生産実習（10日間～2週間の泊まり込み実習）や全学教育科目のフレッシュマンセミナー（5日間の泊まり込み実習）などがあります。家畜生産実習では乗馬実習がカリキュラムに組み込まれ、牧場教員の指導の下で1日2時間の乗馬実習が連日行われます。